

和

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 広報誌
Hyogo University Public Relations Magazine

~nagomi~

学長座談会 巻頭特集

豊かな人間性と広い視野を持つ人材育成を 大学が社会と地域を変える

兵庫県立大学理事長 五百旗頭 真 × 兵庫大学学長 河野 真 × 兵庫大学学長顧問／高等教育研究センター長 有本章



vol. 10
2018年6月

大学が 社会と地域を変える

豊かな人間性と広い視野を持つ人材育成を

激動する世界情勢の中で、日本はどう生きるのか、正念場に差し掛かっています。一方、国内では未曾有の人口減少と超高齢化社会を迎えます。これからの時代に対応するために、大学はどのような人材を輩出すればいいのか、大学の戦略、教育はどうあるべきなのか。政治・歴史学者の五百旗頭真・兵庫県立大学理事長と河野真・兵庫大学学長に語ってもらいました。司会は兵庫大学の有本章学長顧問。

●兵庫県立大学理事長 五百旗頭 真

●兵庫大学学長 河野 真

司会 兵庫大学学長顧問／
高等教育研究センター長

有本章



求められるのは「グローバル」

有本 現在、国際環境は激変し、グローバル化しています。国内では少子高齢化が進み、国民一人一人の生きる力や競争力の向上や、人生百年時代の新たな政策パラダイムが必要です。そのためには、18歳人口だけではなく社会人などのリカレント教育を含む生涯学習の重要性が増しており、まさに高等教育機関の意義が問われています。また、地方の私立大学や公立大学は、地域の人材育成も期待されています。変動が激しい時代において、地域や社会の変革をリードし、自らを律する人材を育成するため、大学の戦略、教育のあり方はどうあるべきか、語っていただきたいと思います。まず、今後求められる人材像について、どうお考えですか。

五百旗頭 神戸大、防衛大、熊本県立大に関わってきました。神戸大教授の時に阪神淡路大震災(1995年)があり、我が家は全壊し、家族は無事でしたが、ゼミ生や大学院生が亡くなりました。震災を経験して、こういうことに対応できない社会では困ると、亡くなった人たちの弔い合戦のつもりで復興に関わりました。防衛大の校長をしていた時には東日本大震災(2011年)があり、復興構想会議議長を務めました。さらに熊本県立大の理事長の時に熊本地震(2016年)があり、復旧復興の有識者会議の座長としてプランづくりのお手伝いをしました。私の持っている知識や経験がニーズに合いました。ところで兵庫県は科学技術立県を考えています。最先端の技術を活用して社会の問題に対処する、先端科学技術に対応する人材をつくりながら社会を支えていく、という方向に向いています。科学技術立県はいいことですが、教育にとって大事なものは豊かな人間性や広い視野を持つ人材です。科学技術能力を活かす上でも、人間性の豊かさが基本ということは経験からも強調しておきたいと思います。

河野 豊かな人間性は私も大事だと思います。兵庫大学のいいところを聞かれると、「学生があいさつをするところ」と答えています。心地よく対応できるというのは、人間関係の基本です。挨拶をする、声掛けをする環境が自然にできるというのは、本学の風土というか、大切にしたい伝統でもあります。また、人間性はもちろんですが、「応用力」も身につけて欲しいと思っています。技術や知識は時間と共に必ず陳腐化していきます。これから生きる学生たちには、得た知識を将来にわたって更新していく能力、そして得た知識を活用し、他者と協力しながら新しいものを生み出す能力を身につけて欲しいと思います。グローバル化については、グローバルとローカルで色分けされがちですが、これからの社会で求められるのは「グローバル」な人材ではないかと思っています。ローカルの地にあっても、グローバルな視点、実際の交流を持ちながら、地域でも仕事をやっていくという人材が必要になるのではないかと。グローバル、ローカルと二分法的に分けるのではなくて、地域や国境などのボーダーを思考から外したり、ハードルを低くすることで、世界中の人たちと交流を深め、情報発信し、自分のいる場所で活躍できるような人材を育成していかなければと思います。

五百旗頭 熊本県立大学のモットーは、「地域に生き世界に伸びる」

です。若いころに世界をフィールドにして、視野を広げ、いろいろな着想を得ながら、熊本に帰って生かす。東京で就職するのもいい、国際的に活躍するのもいい、そうしながら、いつかまた郷里で役に立つという結びつきを持てればいいと言ってきました。世界的な水準と関わりを持ちながら、身近なところで生かしていくというのは賛成です。

マイクロコスモスの可能性を生かす

有本 大学の人材や知的資源を、国や地域の競争力向上に生かしていくためにどうしたらいいでしょうか。

河野 狭い地域に留まるのではなく、どんどん世界につながる人材を育成していきたいと考えています。それが社会の底力になるのかなと思います。また、そもそも大学は若者のためだけのものではありません。これからは、生涯学習や地域連携の要としての存在であることもっと意識しなければならないと思います。地域社会にとって大学は重要なインフラですが、より大きな役割を担っていくべきだと思います。人生百年と言われる時代、18歳人口を対象にするに留まらず、リカレント教育等の生涯学習などシニア層を含めた幅広い年齢層を意識して大学経営をやっていかねばならないと思います。

五百旗頭 国が大学を統制しようというのは、いい点もあるが弊害も大きいと心配しています。結果を早く出せという方向に傾き過ぎています。非西洋社会であった国の中で、日本は断然ノーベル賞をたくさん取っていますね。日本ではじっくりと研究させるのが伝統的な形だったのです。貧しいながら、やりたい研究をやるぜいたくを認められていたが、今は(競争して研究費を獲得する)競争的資金を取らなければならないし、国立大学は毎年1%ずつ予算がカットされ続けています。教授がやたら文書づくりばかりに追われ、中身のある研究ができなくなっています。すぐには役に立たないけれども、人間にとって意味のあること、自分が本当にやりたいことをやらせるというのが一番です。人はマイクロコスモス(小宇宙)としてあらゆる可能性を持っています。それぞれ潜在的にもっているものを、授業によって、交友関係によって、読書によって顕在化していくことが大事です。国としてある方向で競争力を持つという努力は、一定の意味はあるが、みんながそうするべきではありません。「それから外れるからダメだ」というのでは、マイクロコスモスのいろいろな可能性をほとんど殺してしまいます。その結果、日本はノーベル賞も取れなくなると恐れています。かつての自由な教育制度で育った人、もしくは国際的な場を求めた人が実はノーベル賞を取っています。それを画一化して、新しい売れるもので律したら、逆に可能性を殺していくことになります。兵庫大学や熊本県立大学のように、地域に密着して身近で大事なことを伸ばすのは、日本の将来に大事だと思います。

技術をコントロールする能力

有本 新たな時代に必要な大学教育とは何でしょうか。

五百旗頭 兵庫大学では、学内で賞を授与する仕組みはありますか。



●いおきまこと 1943年兵庫県生まれ。京都大学院修了。法学博士。専攻は日本政治外交史。神戸大教授、防衛大校長、熊本県立大理事長などを経て、4月から兵庫県立大理事長。震災では、政府の東日本大震災復興構想会議議長、復興推進委員会委員長、くまもと復興・復興有識者会議議長などを歴任。現在、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長。

河野 優秀な成績を取めた学生に対する優秀学生表彰があります。それとは別に立派なことをした学生のために学長褒賞を設けました。五百旗頭 今、技術の波が津波のように押し寄せています。その技術を学ぶことは大事だが、同時に技術をこなす人間を築き統御して、社会の中に秩序をつくることです。新技術に負けてそれを「神様」にせず、コントロールできる能力が大事。そういうことを忘れない教育をすることが必要です。兵庫大学のように、学長が褒賞するのは人間性のいろいろな面を大事にするということですね。それを聞いて大変うれしく思いました。

有本 人間性について兵庫県立大学においても同様ということですか。五百旗頭 私はそう思っています。科学技術立県は大事ですが、広い視野を忘れてはいけません。

有本 具体的に何かお考えですか。

五百旗頭 兵庫県立大学には多様性があります。県立大学に統合された神戸商科大学、姫路工業大学、県立看護大学はそれぞれ独自の伝統を持つ大学ですし、大型放射光施設「Spring-8」やX線自由電子レーザー施設「SACLA」のある西播磨テクノポリスに立地する理学部など無限の広がりを誇っています。ただ、大事なことはそれに対応できる人間力の形成です。そこで、私は県立大の九つのキャンパスに行き、世界の中で日本はどう生きたいのかという話をします。もう一人、そのキャンパスで先端分野をリードしている先生にも講演してもらい、さらに特徴ある活動をしている学生にも報告してもらい、周辺の住民の方にも来てもらおうと思っています。科学技術立県はしっかりやるが、それだけではなく、学生たちにはもっと豊かな人間性を身につけてもらい、国際的視野を見失わないようにしてもらおうと努力するつもりです。

河野 大学の役割の一つには、フロントラインを先に進めるということがあり、兵庫県立大学は自然科学の分野でそれを先に進めなければならない役目を担っています。た

だ、すべての大学がそれをできるかという点と違うと思います。兵庫大学は人と関わりのある専門職を養成しているわけですが、それはテクニカルな話だけではなく、人間性の器をきちんと教育していかなければならない、また知識や技能を更新していくような応用力を高める教育をしていかなければならないと思います。もう一つは、前述しましたが、大学は若者だけではなく、生涯学習や社会貢献の要としての存在をもっと意識して大学運営にあたるべきではないかと考えています。それが社会の活性化につながると思います。

時代の中心は身近な部分に

五百旗頭 地域社会に対して何かされていますか。

河野 生涯学習という観点ではエクステンション・カレッジを設置し、数多くの講座を展開しています。いわゆるカルチャーセンター的なものではなく、大学の学びに準ずる講座です。また地元の行政や商工会議所、事業所などと連携協定を結んでいます。行政などから大学への要望があり、学生にとってはキャンパス外の学びの場になり、同時に地域のニーズを満たすことにもなります。

五百旗頭 兵庫大学のように福祉や看護、食、健康など身近な部分を大事にすることに時代の中心が来ていると思います。これからの時代、大事な局面を担っていると敬意を表したいと思います。

河野 地域の皆さんが喜んでいただければいいのではないかと思います。建学の精神は「和」です。また、学園訓として「感謝・寛容・互譲」を大事にしています。これからどんな世の中になろうとも、普遍的で間違っていることはないと思います。運営の支柱にしたいと考えています。**有本** 豊かな人間性を生かして地域社会や国をリードしていくという、互いに似た考えを持っていると思います。今後交流を深めて、日本の教育をより良いものにしていきたいですね。



有本学長顧問



保育士の人材育成 人材の輩出

歴史と伝統を生かし、地域が求める保育者を養成

●兵庫大学短期大学部 保育科第一部・保育科第三部 学科長 教授 専門：幼児教育学
福田 規秀

——地域に生きる保育科としての特徴は？

本学は保育者育成の歴史が長く、保育者となった卒業生16,000人ほどが近隣地域で働いています。学生にとっては、現場で多くの先輩が活躍していることは、実習や就職のネットワーク確保につながるメリットです。

保育科の基本姿勢は「子どもに寄り添う保育」の重視。学園訓である「感謝・寛容・互譲」に基づき、チルドレンズ・ファーストを喜びとし、子ども一人ひとりがつめこめられた可能性を伸ばす幼児教育・保育を目指す保育者を育てています。

具体的には「早期の現場体験」、つまり少しでも早く現場に出て体験を重ねてもらおうということを重視し、附属幼稚園で実習やボランティアを行うほか、近隣の保育現場にご協力をいただいて実習を重ねています。他に力を入れているのは、保育に必要な技術の習得です。例えば音楽については、ピアノ演奏レベルの目標を明確に示して学生のモチベーションアップを図るなど、現場のニーズに沿う能力の育成に取り組んでいます。

——学生による地域交流の促進という点で、今後注力したいことは？

自分から考え、地域へ出て行動する力を伸ばすこと、すなわち思考力、コミュニケーション能力を育むことです。すでに、学内での地域交流の機会を増やす試みは始まっています。例えば、教員の指導のもとに学生が遊びを考え、地域の親子を本学に招待する「キッズガーデン」というイベントを年に4回ほど実施しています。

これからも、学生、卒業生、地域の皆様と手を携え、時代のニーズに応える保育者養成を実現したいと考えています。

本学は60余年にわたる専門教育の中で、保育、医療、福祉などさまざまな分野で活躍する卒業生を、加古川市をはじめとする近隣地域に送り出してきました。さらに近年は、エクステンション・カレッジの取り組みを通じ、社会人の皆さんのキャリア向上や生涯学習の支援を進めています。

高い専門性、優れた人間性を備えた人材を社会へ



リカレント教育の充実 エクステンション・カレッジ

社会人のキャリアアップを強力に支援

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部 副学長(研究、社会連携担当) 附属総合科学研究所長/エクステンション・カレッジ長 教授 専門：地域政策、地域経済
田端 和彦

——提供できる学びのバリエーションは？

多学科を擁する教育機関として、生涯学習の面でもさまざまな学びを独自の視点で提供しています。教育・保育系のサポートとしては、保育士の学び直しやレベル向上、潜在保育士の職場復帰支援を行っています。また教員免許更新講習など、教育現場の質の向上に向けた取り組みも進めています。

また、ビジネス系のリカレント教育にも力を注いでいきます。20世紀型の社会では、大学・短期大学等で知識や経験を積んで就職した後、企業内教育を受けて成長しました。しかし昨今の著しい技術発展とグローバル化の進展により、経験に基づく企業内教育では対応しきれない部分が生まれています。そこで本学は現代ビジネス学部を軸に、最新の知見とともに、企画力、問題解決力をつけるリカレント教育を実施したいと考えています。さらに、国際化に対応したビジネス英語講座、例えば英語での商業文書作成も含む講座など開発中です。

——近隣の皆さんにとってエクステンション・カレッジの意義は？

エクステンション・カレッジは、この地域で働き、住む人に職近接で学んでもらうための取り組みです。今後は、深い学びを求める方々の期待に応え、長年に渡り培った専門教育の知見を生かし、質の高い教育環境を提供したいと考えています。

また、人生100年時代に合わせた取り組みとして、人生の豊かさを考える生涯学習も提供していきます。幅広い学びのラインアップにご期待ください。



部活動支援

自ら成長する力を伸ばす 効果的なサポートを展開中

学業とともに学生生活を彩る課外活動。本学はクラブ・サークル活動を学生が自主的に考え、仲間とともに成長する絶好の機会と捉え、活動を全面的に応援しています。活発に活動を続けるクラブ・サークルの中から、特別強化指定クラブである女子駅伝部の姿とともに、本学の部活動支援について紹介します。

大きな目標に向かって

2010年にスタートした女子駅伝部は、本学で唯一の特別強化指定クラブとして、トラック競技と駅伝競走で活動しています。現在の目標は、トラック競技では関西インカレで標準記録を突破し、全日本インカレへの出場を果たすこと。また駅伝競走では、関西学生女子駅伝での上位入賞と、全日本大学女子駅伝の出場権の獲得です。

13名の部員たちはこれらの大きな目標に向かって、かつて陸上中長距離選手として活躍し、10kmの日本最高記録を樹立したキャリアをもつ樽本つぐみ監督の指導のもと、充実したトレーニングを重ねています。

最も重要なのは自己管理

樽本監督は部員たちに、時間厳守、挨拶、自分の体を知るという3項目を徹底して指導。部員は全員、食べた物、走行距離、タイム、体重、

練習内容などについての練習日誌を書き、毎日監督に提出しています。「日誌のねらいは学生の気づきを促すことです。以前クリアできたことが今できない場合、何らかの理由があります。練習の後で個人的に話し合い、その理由を考えるように言うと、学生は過去の日誌を読み返し、自分の体を冷静に見つめ直してきます。」

人間は日々変化し、成長していくという考えから、タイムが伸びないことで悩むより、伸びない理由を考えるように言っています。

自信をもつことで結果もよくなる

サッカー、バレーボールなど、チームプレー中心の球技などとは異なり「個」のスポーツである陸上競技は、自分自身に責任がかかります。それは駅伝でも同じで、たすきを任されている間は他のメンバーとともに走ることはできません。

「一人で練習すると、10キロを設定タイム通り走れないことが、皆となら走れるということは珍しくありません。仲間と一緒にだと、私も頑張ろうという



●女子駅伝部監督
健康科学部健康システム学科 准教授
専門：ランニング科学
樽本 つぐみ



気持ちが湧くのです」。そういう部員の潜在能力を引き出すため、監督は「大丈夫、皆と走れるなら一人でも走れる」と声をかけ励ましています。

部の特徴は、部員たちの「優しさ、人を思いやる心」と監督は感じています。ただし、レース中はそれが弱点となることもあるので「もっと自分に自信を持って。時には強さを前面に出して欲しい」というのが彼女たちへの注文。メンタル面の充実が飛躍につながることを強調しました。学業での成績が上がれば、タイムも上がるそうです。

ポジティブな姿勢は、卒業後もプラス

一般企業に就職する人、保育士になる人など、部員の卒業後の進路は多様です。しかし進む職場は違っても、心と体をポジティブに保つ習慣が身についた駅伝部のOGたちは、それぞれの同僚から、また子どもたちから「走って、すごいことだね」「先生、すごいね」などリスペクトを受けています。「元部員が卒業後に大学を訪ねて来ることもあります。ある人は『駅伝部のメンバーだった頃は朝練が厳しかった。朝起きて、もうダメだと思ったこともある。でも練習場まで来たらまた走れた。だから今、職場でつらいことがあっても大丈夫だと思える』と語ってくれました。嬉しかったですね。」

一方、実業団に進む人に対しては、「この脚が価値をもつという自覚を持って。体調管理は自己責任。結果は出して当たり前。それでも行くと決めたからには、日本代表を目指して続けて欲しい」と、自らの道を振り返りながら少し厳しい言葉を送っています。

地域の期待に応える

今後の目標については、「部の目標はもちろん全日本インカレ、全日本大学女子駅伝に出ること

ですが、将来は大学で子どもや社会人向けの陸上教室を開きたい。学生たちが一般の人に、経験を生かして教える場が作られたいと考えています。応援して下さる地元の人に対し、結果を出して期待に応えるとともに、交流の機会を増やしたいですね」と語りました。



●教務部 学生支援課 課長
田中 祥太

課外活動支援の充実に向けて

クラブでも専門知識をもった外部指導員による指導を仰ぎ、課外活動の活性化を図っています。

最近の傾向としては、地域のボランティア活動に積極的に関わる学生が増えています。人形劇サークル(わくわくさんのポケット)、食に関する活動を行うクラブ(V-net)、看護学科生を中心とした救急救命サークルなど、大学での学びの成果を発表する場として課外活動が活かされている様子が伺えます。

本学では学生と大学執行部が意見交換を行う「明日の兵庫大学・兵庫大学短期大学部を考える会」があります。昨年度は課外活動の活性化について積極的な意見交換が行われました。

課外活動を通じて学べることは多くあります。他のメンバーと協力し合い、困難を克服して目標を達成した経験は社会に出ても役立つことでしょう。また一生の友人を得る機会となるかもしれません。今後も学長以下、教員、職員が学生と意見交換を進め、学生の要望をしっかりと吸収しながら課外活動のさらなる活性化をめざして取り組んでいきます。

クラブ、サークル参加でより一層の成長を

速報 [2018 関西学生対校選手権 1500m]にて、健康システム学科3年生の櫻井千佳さんが2位に入賞し、[2018 日本学生陸上競技個人選手権大会]及び[天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会]に出場決定!



人に優しく寄り添い、暮らしを支える コンピュータシステムを

自然言語処理の新たな進展に挑む

●生涯福祉学部子ども福祉学科 教授 専門：情報工学(自然言語処理)
高野 敦子

【研究テーマ】ウェブデータをを用いた知識処理／知識処理技術の教育工学への応用／情報の可視化 など

人工知能研究のなかでも、人が日常的に使っている自然言語をコンピュータに処理させる「自然言語処理」の分野で研究を重ねてきた高野敦子教授(子ども福祉学科)。テクノロジーのめざましい発展とともに変化してきた研究内容や、人に役立つ今後のAI研究のあり方などをめぐって話を聞きました。

—自然言語処理の研究とは、どのようなものですか？

私は20年ほど前から、人の言葉をコンピュータに理解させることをめざして研究しています。初めは自動翻訳をテーマにしていたのですが、次に、窓口業務などを想定し、人とコンピュータの対話システムをつくる研究を始めました。その後、10年ほど前に、インターネットで宿を予約するサイトの口コミを分析して、その評判をコンピュータが理解し、マーケティングに活用させるという研究で一定の成果を出すことができました。

—具体的にはどんな研究だったのですか？

ユーザーの発言が肯定的なものか、否定的なものかを認識させる研究です。例えば、ホテルの評価に「遠い」という言葉が含まれている場合、「道路から遠い」であれば「静かで良い」という肯定的評価になりますが、「駅から遠い」であれば「不便」という否定的評価になります。文の論理的構造に注目し、書き込まれた文章から肯定否定を判別しているという研究でした。



授業風景

—現在の取り組みについて教えてください。

最近では、オープンデータをどう活用するかという方向に関心をもっています。データを機械処理してアプリを作るには、知識をコンピュータが扱える形にする必要があります。どんな形で知識を蓄えておけば使いやすいか。それを使ってプログラムを作りやすいか。そういう問題を解決する上で、知識の構造化を通じて自然言語処理に取り組んできた今までの研究が活かせると考えています。

—最近また人工知能が目覚ましく発展しました。

今、私たちは3回目の人工知能ブームのただ中にいます。1回目は、コンピュータに数学定理の証明ができることに皆が驚いた時代。人間にできる簡単なことができないと分かり、廃れてしまいました。2回目は、コンピュータに知識を持たせようとした時代です。家電にAIが組み込まれるようになり、音声認識研究も盛んになりました。私が人の対話構造をモデル化して、コンピュータに入れる研究を始めたのもこのころです。しかし、コンピュータに人と同様の考え方をさせるのは難しいとわかり、このブームも去りました。



卒業したゼミ生から送られた記念の品

3回目の今は、全く異なる発想で研究が進んでいます。それは、コンピュータに「意味」は必要ない、とにかくデータをたくさん集め、データから学習させればうまくいくという発想です。

—AIの知見を盛り込んだ、今後の研究の行方は？

対話型モデルに今のAIがもつ学習機能を加えることで、より人間らしい処理ができるようになるのではと考えています。目標は、人間の言葉をつかんで感情を理解できる対話モデルを作ることです。

最近「人の仕事はコンピュータに取って代わられるのか」が問題になっており、もう窓口事務の人はいらぬ、というような議論もあります。しかし私はそんな方向よりも、人の言語活動をより円滑にするための支援がAIでできればと考えます。例えば、一人暮らしのお年寄りの感情をくみとって人間と協働して話し相手になるようなロボットは、これからの社会に役立つ存在になるでしょう。

時代を越えて生き続ける 信仰のこころ

日系アメリカ人の文化と宗教



●共通教育機構 准教授 専門：宗教社会学
本多 彩
【研究テーマ】
日本宗教の海外伝播／日系アメリカ人の文化と信仰
アメリカの宗教情勢と仏教など

明治以降、アメリカに渡り現地に定住することを決意した「日本人移民」。現在は2世から3世、4世、そして5世となって、現地で暮らしています。自身が僧侶でもある本多彩准教授(共通教育機構)は、アメリカ西海岸における日系アメリカ人の宗教や文化を研究し、彼らの想いを日本人々に伝えています。

—日系アメリカ人と仏教との関わりは？

現在西海岸に多く住んでいる日系の人々は、おおよそ1920年代までに移民した日本人の子孫たちです。移住した当初はキリスト教になる日本人も多かったようです。しかし母国にいた時と同じように、仏教に手を合わせたい、冠婚葬祭を仏式で行いたいという人が多く、浄土真宗の本山は移民たちの要請を受け入れ、僧侶を派遣しました。現在の日系アメリカ人4世ぐらになると、他のエスニックグループとの結婚が多くなり、地理的に拡散して居住しているため、仏教とのつながりが薄くなる人もいます。しかし、4世代、5世代にわたって仏教を大切にしている人も数多くみられます。



札拜室「思惟館」正面の法輪



米国で出版された研究資料。日系人の収容所での信仰、在米仏教組織の活動など

—彼らは仏教を通じ、日本とのつながりをもっているのですか？

お寺は日本文化を紹介・普及する場にもなっています。和太鼓や日本料理を紹介するイベントが開催されることもあります。特に日本への関心が高い3、4世にとって、お寺は日本の事を知ることができる場所になっています。もちろんお寺は教えを大切に伝える宗教的な場所です。戦後、散らばって住むようになった日系アメリカ人ですが、遠方からでもお寺に通ってきますし、多くの異なったエスニックグループの人が「仏の教えに触れる」ことを求めて訪れるケースも多いです。現地では禅やチベット仏教、マインドフルネスなどを通じて仏教に関心を持つ人が多く、仏教は人気があると思います。

—アメリカのお寺と日本のお寺で違う点は？

本堂が椅子式で、内陣と僧侶が話す台が高いところにあるのが違うと思う点です。キリスト教教会の影響という人もいます。ただ、最近では日本でも椅子式になっていきます。将来、本堂の外陣は似たようになるかもしれません。また、アメリカのお寺は世襲制ではないので、一人一人のお坊さんのエピソードが興味深いですね。遡って研究していくことで、各時代の中での人々の考えもわかるのではないかと考えています。

日系アメリカ人には世代が変わっても「お寺は自分たちが引き継ぐもの、守っていくもの」という思いがあります。直接日本を知らない、3、4世にも、自分たちの祖父母が作ったものを受け継ぎ、育てていこうという意識が強く感じられます。

—研究者としての想い、今後の展望は？

私は10代のはじめにアメリカ暮らしを経験し、現地の大学でも学びました。アメリカ仏教の研究を始めたのは20年ほど前からです。アメリカで指導を受けた先生は戦時中の強制収容所の研究が専門でした。私は先生の下で、戦時中に収容された約12万人の日系アメリカ人が所内で、宗教活動が許される中、どのような想いで自分たちの信仰を守ったかということ学びました。

日系アメリカ人が中心であった寺院は、現在では多民族化しています。根本の教えは変わりませんが、時代と共に変化していく部分が、どう変わっていくかを見ていきたいと思っています。そこから日本が学べることも多いのではないのでしょうか。

今後は、現在のアメリカ仏教の研究とあわせて、1940年代の日系アメリカ人が戦後どのようにお寺を再建したかについて、資料をひもときながら、人の動き、組織の再結成などの経緯を調べていきたいと考えています。

リアルデータを冷静に見つめ、理論の検証、再構築を繰り返す

株式市場の流動性を記述する
新たなモデルの構築を目指して

●現代ビジネス学部現代ビジネス学科 准教授 専門：マーケット・マイクロ・ストラクチャー
橋本 尚史
【研究テーマ】株式市場の流動性など



人々の心はどのような時に、投資へと向かうのか。橋本尚史准教授（現代ビジネス学科）は「流動性」という指標を用いて、リスクに対する人の態度からその謎を解き明かす研究に挑戦しています。株式市場の流動性に関する研究を本格的に始めたのは大学院時代、金融データ分析の面白さに目覚めてから。よき師との出会いが研究のきっかけになりました。

取引が不活発になりました。なぜこういう現象が起きたのか、人々に何が起きたのかということに興味があります。また各国の金融政策の変更も各国株式市場の流動性に相互に影響を与えるので、その因果分析にも関心をもっています。

——研究の方法は？

まず数理モデルを作り、それが現実にマッチしているかを、株価データを用いて検証しています。株価には公開されている多種多様な情報が含まれているので、株価から人々のリスクへの態度が見てとれないうか、と考えています。

他の研究者がよく実施する方法はアンケート調査ですが、それだとコストがかかる上に、集計をして統計をとるまでに時間がかかり、その間に人の気持ちが変わってしまうこともありえます。リスクへの態度の変化をタイムリーにつかむために、データ分析が容易な数理モデルでのアプローチを採用しています。

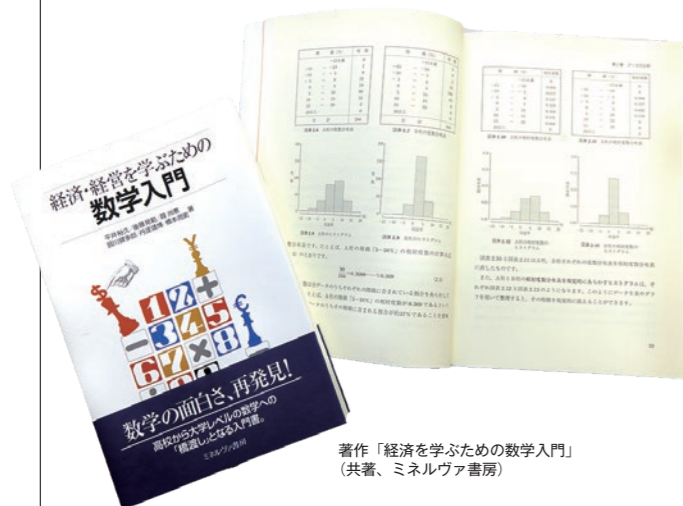
分析対象は東京証券市場だけでなく、世界全体の株式市場を視野に入れて研究しています。それによって、各国の金融政策の変更が日本の投資家に与える影響もグローバルな視点で見ることができるのではないかと考えています。モデルの利用における運用コストの面を含め、利用しやすいモデルを完成させるために試行錯誤を重ねています。

——研究者になったきっかけは？

経済学部の学生だったころにブラック＝ショールズの方程式を知り、金融工学が面白いと思うようになりました。その後就職するつもりだったのですが、当時は山一証券が倒産するなど、日本経済が混乱していた時期だったので、2年間勉強しようと思い大学院へ進学。そこでいい指導教官に巡り会って、株式市場の流動性をテーマに研究を始めることができました。

——研究上、大切にしていることは？

これは私の先生から学んだことですが、「研究は誠実であるべき」が座右の銘。頭の中で作ったストーリーに合わせて結論を出してはいけないうか、と肝に命じて、つねに立ち止まって「なぜ」を考え、「これでいいか」を検証しています。これからも機関投資家や証券会社に活用されるようなモデルをめざして、ブラッシュアップしていきます。将来は共同研究を通じ、世界中の金融データを集めて分析したいと考えています。



著作「経済学を学ぶための数学入門」
(共著、ミネルヴァ書房)

——株式市場の「流動性」とは？

私は株取引のしやすさについての研究をしており、流動性はその指標の1つです。普通、お金をすぐに引き出せる状態を流動性が高いといいますが、株式市場では売り買いがしやすいかどうかを流動性で表します。小型株など、あまり売られることのない株は、買い手が少なく、流動性が低い株です。反対に一部上場の大企業の株は、売りたいと思えば買い手がすぐにつく、流動性が高い株です。投資家にとっての問題は「株式市場の流動性にインパクトを与える要素は何か?」。私はこの点を研究テーマにしています。

——このテーマに興味をもつ理由は？

株式市場の流動性は、経済環境の変化によって変動します。例えばリーマンショックの頃、アメリカ市場の流動性が低くなるのは当然だとはいえ、リーマン事件の直接の影響を受けなかった日本でも、同じように

社会福祉学科卒業後、地元加古川市の社会福祉協議会ボランティアセンターに勤務する地主祐樹さん。地域密着型ボランティア活動のいっそうの浸透に向け、ボランティア依頼への対応、小中学校での福祉教育の協力、活動参加のきっかけづくりなど、日々アクティブに取り組んでいます。

行事参加から話し相手まで、依頼内容は多種多様

社会福祉協議会、(通称 社協)は地域、町内をベースに暮らしをサポートする民間団体で、国、都道府県、市町村単位で募金活動や子育て支援など様々な事業を行なっています。加古川市社協のボランティアセンターに勤める地主さんは、ボランティア活動をしたい人とボランティアさんを求める人をつなぐコーディネートの役割を果たしています。

「地域ボランティアのニーズは多様で、『季節イベントでの音楽演奏』といった行事の参加依頼から、『施設や在宅で高齢の方の話し相手になってほしい』など相手の心に寄り添うようなボランティアもあります」。そのような依頼に対して、地元のさまざまな組織と連絡を取り合い、実現に向けて詳しい調整を行います。

活動したい方への入門講座も準備

一方、ボランティア活動を行いたいという方へのサポートも大切な業務内容です。「漠然と、『いろいろなことにチャレンジしたい』と考え、窓口に来られる方も多いですね。まずは、どんな活動があるのかわかる情報誌をお渡ししたり、手話や朗読、点訳などさまざまなボランティア講座をご紹介したりして、興味を持たれた内容への参加を呼びかけます」。



地域ボランティア活性化の架け橋になりたい



自分の考えに自信を持って、何事にも全力で打ち込めた、素晴らしい大学生活でした。

地主 祐樹さん

生涯福祉学部社会福祉学科を2016年3月卒業後、加古川市社会福祉協議会に勤務。入局後は一貫して加古川市ボランティアセンターで、ボランティア活動の活性化に務めている。

これから力を入れていきたいボランティア活動については、「無料または低料金で子どもたちに食事を提供する『子ども食堂』や、学校生活を応援する『学習支援』などを展開したいと同僚たちと話し合っています」。また、ゴミ出しや電球交換など「一人暮らしのお年寄りの生活をお手伝いするボランティアさんを増やしていきたい」と考えています。

ボランティア参加者の裾野を広げる活動としては、「教育委員会と連携して小学校や中学校での福祉教育をより浸透させていきたい」という答えをもらいました。また、ボランティアに参加される方の「生きがい」につながるような仕組みを整えていくことも大事だと考えています。「『ボランティア元年』と言われた阪神淡路大震災から20年以上が過ぎました。今一度、ボランティア活動のあり方をみんなで考え直す時が来たのではないかと思います」。

先生、友人との距離が近かった学生時代

地主さんが社会福祉の道を選んだきっかけは、子どものころに参加した福祉関連のイベントでの体験にあります。現場を支えている人々

のことを知り、福祉の仕事がしたいと考え、本学の社会福祉学科に進学しました。「当時まだ誕生して4年目の新しい学科でした。先生や友人との距離がとても近かったのも、何でも話し合える関係を築くことができました。友人と協力して男子バレーボール部を創設したことで、仲間と力を合わせて活動する楽しさを知ったこともいい思い出です」。





多彩な海外経験を通じ、国際保健・看護に触れる

3月24日～30日、看護学科では、海外の医療現場に触れ、国際的な視点を育むために、タイ国立マハサラカム大学看護学部へのナーシング・スタディツアーを実施。参加学生は研究発表、先進的がん病院、緩和ケア施設の見学など、充実したプログラムを通じて国際保健・看護の世界を体験しました。

- 看護学部看護学科 教授
専門：医学(内科学)
伊藤 純
- 健康科学部看護学科*4年生
立花 佳久(神戸市立科学技術高校出身)
- 健康科学部看護学科*4年生
内田 朱音(兵庫県立明石南高校出身)

※平成29年4月、健康科学部看護学科から看護学部看護学科に改組

●施設見学が入っている理由は？

伊藤 先進国同様、タイでもがんや生活習慣病は死因の上位に挙がる病気です。タイでは、対策が先行している日本のやり方を取り入れようとしています。逆にガンの緩和ケアについては、仏教に根ざした独自の統合医療に見るべきものがあります。そこで今回のツアーには、現地で先進的な医療を行なっている病院と、お寺が経営

する緩和ケア施設の見学を盛り込み、その後で学生による発表と議論の場を設定しました。



歌ったり、踊ったりして過ごしていました。ガンを克服したお坊さんの話も聞きました。ストレスがかりにくい環境で過ごすことが、生きる希望につながると感じました。

伊藤 必ずしもエビデンスの確立したものばかりでなく、賛否両論ありますが、終末期の過ごし方を考える良いきっかけになるのではと思いました。一方、タイでもがんは数ある慢性疾患の一つとしてとらえられるようになっており、外来化学療法などの先進的な施設も見学しました。日本と同様に予防・検診システムが充実し、電子化も進んでいました。

●発表と議論から得たものは？
立花 学生発表のテーマは、がんと生活習慣病の対策についてでした。英語での発表なので、日本での準備、特に発表資料の翻訳作業が大変でした。

内田 現地に入ってから、グループ全員でスライド発表の練習をしました。

伊藤 1、2年生が多いグループを、当時3年生だった立花さん、内田さんの両リーダーがよくまとめてくれました。発表後の議論も、さまざまな発見の機会となったと思います。

内田 「日本ではがん患者への差別があるのか」と質問されました。そのことで、タイではエイズなどの病気への差別があるということを知りました。

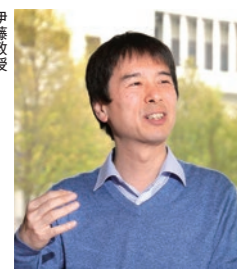
立花 最近はタイでも糖尿病が増えているのですが、「日本は医療先進国なのになぜ糖尿病患者が多いのか」と聞かれました。食生活の欧米化は、日本ではタイより3、40年先行しています。タイでは経済発展とともに糖尿病患者が増えたが、今後対策を導入していけば減少すると答えました。

●タイの学生との交流について

内田 英語が通じないときは、ボディランゲージで話しました。学生との交流は楽しかったです。タイでもJポップは人気。いっしょに踊りました。

立花 向こうの学生も、勉強は大変だと言っていました。

伊藤 このスタディツアーは、異なる文化背景の患者さんとのコミュニケーションのいいトレーニングになったと思います。学生の成功体験になるでしょう。



伊藤教授



内田さん

学生による 食品開発/PBL

自由な発想でさまざまなイベントに挑戦していく学生たち。その活躍ぶりは、目を見張るものがあります。今回ご紹介するのは、食品開発に挑戦した栄養マネジメント学科3年生の2名。地元播磨地方のケーブルテレビの番組内で、地場産の食材を用いたオリジナルメニューを披露しました。

旬の地場食材を生かした 美味しい献立を開発！



実習室での収録風景



●健康科学部
栄養マネジメント学科3年生
河上くるみ(兵庫県立琴丘高等学校出身)

●健康科学部
栄養マネジメント学科3年生
大西楓(兵庫県立百高高等学校出身)

トマトとタコの美味しい料理を考える

河上さんと大西さんは、栄養マネジメント学科の3年生。2人はこの春から地域情報番組「にじいろたまご(BAN-BANテレビ11チャンネル)」に出演しています。

きっかけは、もともと食品開発に興味をもつ河上さんが先生と話していた時に、「地元ケーブルテレビで定期的にメニューを作って紹介する番組があるけれど、出してみませんか」と言われたこと。「オリジナルのメニューを作って紹介できるのが

楽しそうだったので、友人の大西さんを誘って準備を始めました。(河上)。

初回の食材はタコとトマトでした。テレビ局からその連絡が入ったのは、3月の初め頃。それから2人でメニューを考えました。「最初はトマトをくりぬいてグラタンを詰めるのもいいかなと思って試作しましたが、見た目があまり綺麗にできませんでした。やはり簡単なものの方がいいと考え直し、炊き込みご飯に決定しました。(大西)。また、せっかく栄養マネジメント学科の学生なのだから、解説にはトマトの栄養の説明を加えよう決めました。

トマト農家訪問に続き、 大学で料理の様子を収録

収録は3月21日。スタッフとの打ち合わせの後、



トマト栽培農家にて

稲美町のトマト栽培農家を訪ね、まず完熟トマトを試食しました。その後、学校に戻って実習室で調理。「大きいトマトを乗せて、潰さないように炊きました。また、色目が綺麗になるように、大葉を上

に散らしました」「タコは大きめに切るのがコツ。炊くと小さくなるから」など調理上の工夫も解説。食の専門家を目指すだけあって相当なこだわりようです。「炊き込みご飯はトマトをご飯の上のせて炊くとべちゃべちゃしない。(河上)と美味しさの秘密も披露しました。

テレビ出演の感想を聞くと、「自由に考えられて、おもしろかったです。加古川近隣の美味しい食材をもっと紹介して、地域活性化のお手伝いをしたい。農家の人にもトマトの育て方を聞こうとしたが、緊張してしまっ。次回はもっと質問しようと思っています。(大西)。

食品開発はやりがいがいっぱい

大学で学んで成長した点は「自分の意見が言えるようになり、自立心が育ったこと。(河上)。将来は「病院の管理栄養士となり、地域の食材を使って、入院中の人にも食の楽しみを提供できるようになりたい。(大西)、「ご飯を食べる人と触れ合える職場が憧れ。食品開発の仕事も選択肢の一つです」(河上)と、それぞれに希望を膨らませています。栄養マネジメント学科については、2人とも「1年次から実習が多いのが嬉しいです」。

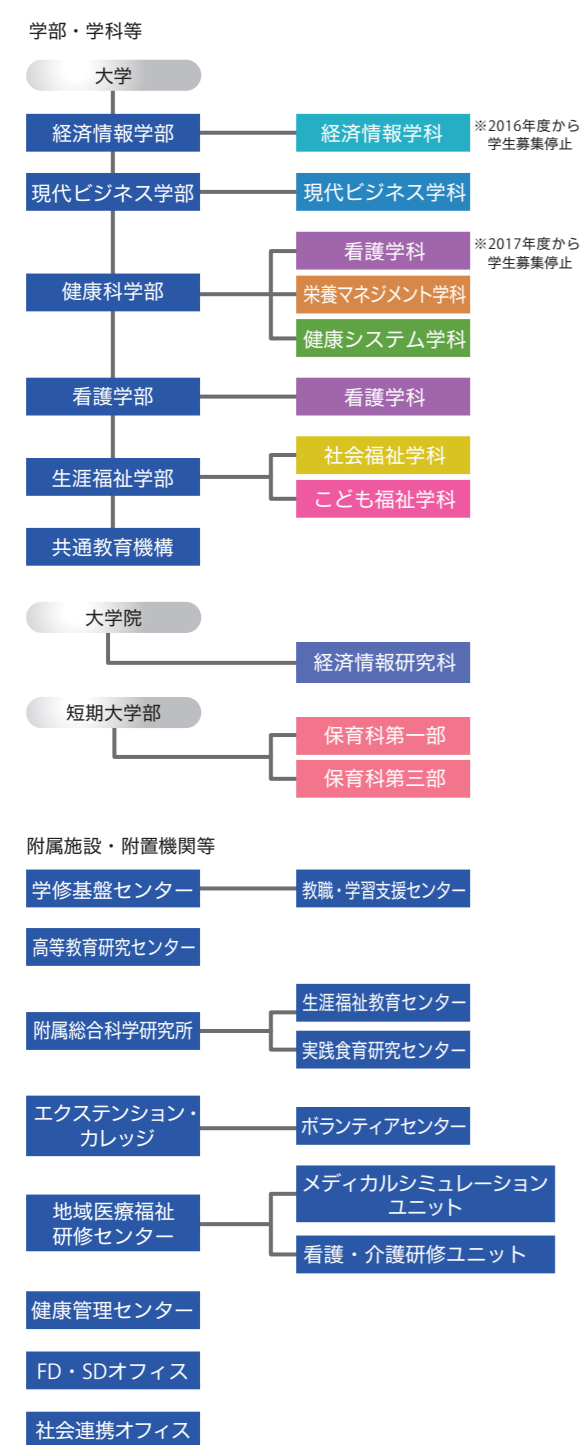
今回の「いちごを使ったスイーツ」は4月末に収録予定。「この出演は、大変だけどやりがいがある。続けていきたい」という2人にぜひ、今後もご注目下さい。

(※取材は4月14日に実施しました。)

●兵庫大学 兵庫大学短期大学部

設置者	学校法人 陸学園	建学の精神  聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成します。 ※本学は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の宗門関係学校です。
設置年	兵庫大学 1995(平成7)年 兵庫大学短期大学部 1955(昭和30)年	
理事長	渡邊 東	
学長	河野 真	
校地・校舎面積	(校地面積)91,513㎡ (校舎面積) 40,313㎡	
蔵書数	143,830冊	

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部教育研究組織



●取得可能な資格 ★は国家試験受験資格 ☆は受験資格

大学院	経済情報研究科	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校教諭専修免許状「情報」(高等学校教諭一種免許状「情報」の取得が必要)
大学	経済情報学科	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校教諭一種免許状「情報」 ●高等学校教諭一種免許状「公民」 ●高等学校教諭一種免許状「商業」
	現代ビジネス学科	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校教諭一種免許状「公民」・「商業」 ●上級秘書士・上級秘書士「国際秘書」 ●上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士「国際ビジネス」 ●上級情報処理士
	栄養マネジメント学科	<ul style="list-style-type: none"> ●管理栄養士★ ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者 ●食品衛生監視員 ●フーズスペシャリスト☆
	健康システム学科	<ul style="list-style-type: none"> ●養護教諭一種免許状 ●中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」・「保健」 ●健康運動指導士☆ ●健康運動実践指導者☆ ●初級障がい者スポーツ指導員 ●ジュニアスポーツ指導員☆ ●社会福祉主事任用資格 ●第一種衛生管理者
	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> ●看護師★ ●保健師★ ●養護教諭一種免許状 ※保健師課程は選択制です。
大学	社会福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉士★ ●精神保健福祉士★ ●高等学校教諭一種免許状「福祉」 ●社会福祉主事任用資格 ●児童指導員任用資格 ●福祉レクリエーション・ワーカー
	こども福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> ●幼稚園教諭一種免許状 ●保育士資格 ●こども音楽療育士 ●児童厚生一級指導員 ●社会福祉主事任用資格
短期大学部	保育科	<ul style="list-style-type: none"> ●保育士資格 ●幼稚園教諭二種免許状 ●社会福祉主事任用資格

データで見る

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

●学生数 (単位：人)

大学	男	女	計
大学院 経済情報研究科	0	2	2
経済情報学部 経済情報学科	27	6	33
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	79	44	123
健康科学部 看護学科	27	183	210
健康科学部 栄養マネジメント学科	47	172	219
看護学部 看護学科	35	174	209
生涯福祉学部 社会福祉学科	38	58	96
生涯福祉学部 こども福祉学科	34	132	166
大学計	364	835	1,199
短期大学部	男	女	計
保育科 第一部	8	191	199
保育科 第三部	8	235	243
短期大学部計	16	426	442
大学・短期大学部合計	380	1,261	1,641

●卒業生数 (単位：人)

	合計
大学(大学院含)	4,750
短期大学部(専攻科含)	30,567
大学・短期大学部合計	35,317

●専任教員数 (単位：人)

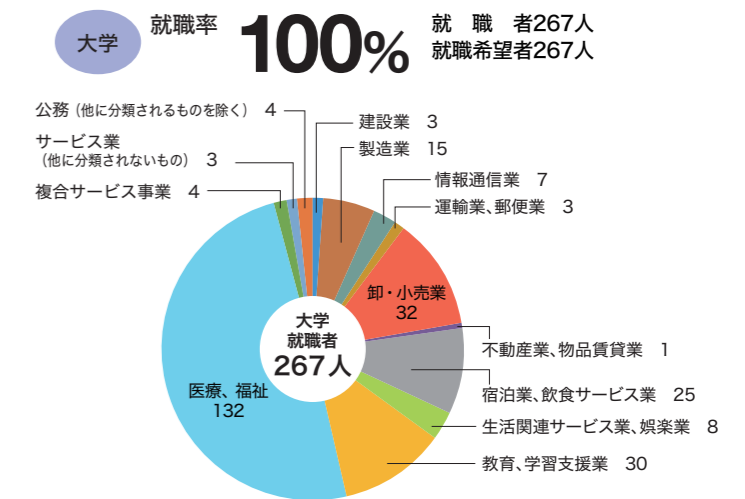
大学	教授	准教授	講師	助教	助手	計
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	8	5	2	0	0	15
健康科学部 栄養マネジメント学科	5	4	4	1	4	18
健康科学部 健康システム学科	6	4	1	0	0	11
看護学部 看護学科	10	3	12	1	5	31
生涯福祉学部 社会福祉学科	4	3	1	0	0	8
生涯福祉学部 こども福祉学科	6	5	0	0	0	11
共通教育機構	3	6	0	0	0	9
高等教育研究センター	2	0	0	0	0	2
大学計	44	30	20	2	9	105
短期大学部	教授	准教授	講師	助教	助手	計
保育科第一部・第三部	7	5	6	0	0	18
短期大学部計	7	5	6	0	0	18
大学・短期大学部合計(職位別)	51	35	26	2	9	
大学・短期大学部合計(総数)	123					

※健康科学部看護学科は看護学部看護学科の教員が兼務。
 ※経済情報学部経済情報学科は現代ビジネス学部現代ビジネス学科の教員が兼務。

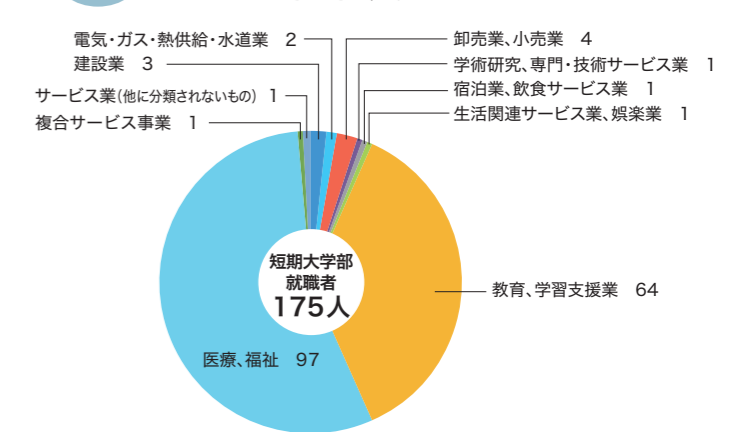
●専任事務職員数 (単位：人)

大学・短大共通	62
---------	----

●平成29年度卒業生 就職状況 (単位：人)



●短期大学部 就職率 **100%** 就職者175人 就職希望者175人



●地域別就職状況 (単位：人)

地域	就職者数
北海道	1
関東	1
中部	2
関西	326
合計	442

地域	就職者数
中国	1
四国	1
九州	1
鳥取県	1
岡山県	2
広島県	2
島根県	1
愛媛県	1
高知県	3
香川県	1
徳島県	1
福岡県	3
熊本県	1
神戸市	75
姫路市	65
加古川市	51
明石市	42
小野市	9
加東市	8
尼崎市	7
高砂市	7
たつの市	6
赤穂市	4
伊丹市	4
加古郡播磨町	4
加古郡稲美町	4
その他	40
合計	326

※14・15ページ掲載データは全て2018(平成30)年5月1日現在のものです。

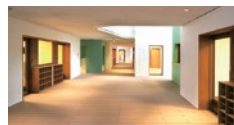
●本学教員の近刊図書●

- MINERVA 初めて学ぶ子どもの福祉⑦ 保育の心理学
看護学科 森田恵子
ミネルヴァ書房/共著 伊藤篤 編著 2017年10月発行
保育や児童福祉にかかわる専門職を目指す学生や初学者に親しみやすく、わかりやすいテキスト。新「保育所保育指針」等にも対応。
- スタディスキルズ・トレーニング 改訂版—大学で学ぶための25のスキル—
社会福祉学科 吉原恵子
実教出版/共著 間瀬泰尚・富江英俊・小針誠 著 2017年10月発行
入学前教育から入学時オリエンテーション、初年次教育の内容をカバーする基本テキスト。導入教育や生涯学習に連なる学びの「基礎力」が身につく。
- 田辺聖子文学事典 ゆめいろ万華鏡
保育科 野田直恵
和泉書院/共著 浦西和彦 他 編著 2017年10月発行
国民的作家である田辺聖子の多種多様な活動についての560項目を網羅した事典。よみものとしても楽しめる。
- インターネットの光と影 Ver.6
被害者・加害者にならないための情報倫理入門
健康システム学科 河野稔
北大路書房/共著 情報教育学研究会(IEC)、情報倫理教育研究グループ 編著 2018年2月発行
ビッグデータやIoTなど新しい情報技術、人工知能の急速な進展、さらには学習指導要領の改訂といった近年の社会動向に対応した、新しい情報倫理のテキスト。
- インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版
健康システム学科 河野稔
実教出版/共著 情報教育学研究会(IEC)、情報倫理教育研究グループ 編著 2018年3月発行
高校・大学での情報モラル(情報倫理)のテキストとして、情報社会のしくみや特徴、インターネットの利用に必要なルールやモラルについて解説。
- コンパクト版 保育内容シリーズ 音楽表現
こども福祉学科 立本千寿子
一藝社/共著 渡辺厚美 他 2018年3月発行
音楽的発達が著しい乳幼児期における表現の芽生えや育ちを促すアプローチについて、多面からまとめられている。
- キャリアアップ国語表現法 十八訂版
保育科 野田直恵
嵯峨野書院/共著 丸山顯徳 編著 2018年3月発行
基礎的な国語力を培う演習を軸とした、大学初年次教育用テキスト。内容は時代に合わせて毎年更新している。
- 国際統合報告論—市場の変化・制度の形成・企業の対応—
共通教育機構 沖野光二
同文館出版/共著 古庄修 編著 2018年3月発行
議会議案の回復を目指し、Brexit直前の「英国の動向」とグローバルな競争優位性を目指している「南アフリカの動向」の2章を科学研究費の研究成果として執筆した。
- 地域福祉への挑戦者たち
社会福祉学科 小林茂
大学教育出版/共著 小林茂 他 2018年5月発行
戦後、地域福祉の実践を紹介し、その意義と今日の地域福祉に与えた影響についてまとめられている。

施設紹介

兵庫大学附属加古川幼稚園

平成30年4月、キャンパス内に併設されている兵庫大学附属加古川幼稚園の園舎が新しくなりました。テーマは「森の幼稚園」。自然素材を使用し、素材の持つ質感や重み、柔らかさを大切にしています。また、まわりの森や池の植物をイメージした色を各所に使用し、園児にとってイメージしやすい空間になっています。こども福祉学科や保育科などの学生の実習にも使用されています。



「タグライン」を策定しました

本学が掲げる教育理念やビジョンを、より多くの方に知っていただきたいという想いから「タグライン」を策定しました。今後幅広い場面において積極的に活用して参ります。

ありがとうございますのプロフェッショナルへ。

～「タグライン」に込める想い～

「ありがとう」に

あふれる人生を送ってほしい、それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、仕事をさせていただくこと。

他者にこころを寄せ、

おたがいに認め合い大切にしようこと。

そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。

すると、やがてあなた自身が

「ありがとう」という感謝の言葉を

いただくことができる専門家となります。

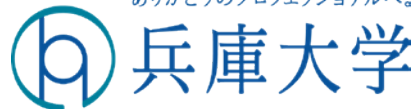
それこそが、私たちが目標とする

“ありがとうのプロフェッショナル”なのです。

私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。

ありがとうございますのプロフェッショナルへ。



兵庫大学



(大学公式サイト)

読者アンケートのお願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。

http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/post_15.php



編集後記

初めて「和」の取材に立ち会い、学長をはじめ、教職員の方々、そして学生さんが本学に懸ける想いというものを実感しました。そんな兵庫大学の“想い”を皆さまにもお伝えできれば幸いです。(Y)

表紙「和」

学園創設者 河野 厳想 書

「以和為貴 篤敬三寶※1」から一字引用

※1「和を以て貴とし、篤く三宝を敬え」十七
条憲法には和を大切に、三宝を敬うようにあります。
三宝は仏教における仏(覺者)、法(教え)、僧(仏と法を大切に
する人)の三つの宝です。

